

偉人伝を活用した学生指導の教育的可能性に関する研究

Study on student guidance utilizing lives of great people

松永 由弥子

Yumiko MATSUNAGA

(令和元年10月1日受理)

Key word : 日本人論、徳目、偉人伝、学びに向かう力、人間性の涵養、主体的な学び

要旨

平成26(2014)年度より平成30(2018)年度まで5年間担当した「日本人論」において、日本の偉人や国内の各地域で活躍した偉人を取り上げ、各地域の偉人を取り上げる際には、学生自ら人物を選び、調べてもらう作業を課した。本稿では、そのような偉人伝の活用を通して、学生がどのような成長を遂げた可能性があるか、すなわち、大学における「偉人」を通じた学びが、「学びに向かう力」を育めたか、「主体的な学び」を提供できたかを、学生の反応の分析等を通し、検討を行った。

半年間にわたる授業の前半では、日本文化や産業、宗教について概観し、授業の中盤では、具体的に日本人の精神性を徳目の観点からとらえる立場をとって、新渡戸稲造の『武士道』、『教育勅語』、学習指導要領の「道徳」で取り上げられる内容を検討した。その後、授業の後半において、日本の偉人を取り上げ、各学生にも1名ずつ偉人を調べ、発表してもらい、日本人の精神面から見た特質を検討した。なお、学生の調査・発表の項目については、授業前半で概観した日本人の精神性や徳目の観点から調査内容を整理・考察できるようなワークシートを提示し、それに基づいて、1人3～10分(受講者数によって増減)の発表を行ってもらった。

平成28年度期末試験受験者学生の約3分の2にあたる26名が、成長を感じさせる回答をし、偉人の生き方を参考により良い生き方を考えるようになったと推測され、大学のアクティブラーニングの1つとして有用ではないかととらえられた。今後はこの学びを高校生の在り方生き方教育や進路指導にも役立てることができないか、その可能性も探っていきたい。

はじめに

筆者は、平成26(2014)年度より平成30(2018)年度までの5年間、「日本人論」⁽¹⁾という講義を担当した。平成26年度当時、専任教員が興味・関心を持ち、造詣を深めた分野に関連して講座を開設することが推奨されており、筆者はそれに応えて、この「日本人論」を開設した。変化が激しく、グローバル化が進む社会にあって、どのように生きていくべきかを考える際に、日本人学生が「日本」や「日本人」という足元の状況を理解しておくことは重要だと考えたからである。授業では、単に、巷にあふれる数多くの日本人論を紹介し、

その内容を知らせるというよりは、過去の日本人の生きざまを身近に感じることで、自分自身の生き方を見つめ直したり、目標や抱負を持つようになったりする方が意義があるのではないかと考え、日本の偉人や国内の各地域で活躍した偉人を取り上げることにした。さらに各地域の偉人を取り上げる際には、学生自ら人物を選び、各自に調べてもらう作業を課した。

本稿では、そのような「日本人論」における偉人伝の活用を通して、学生がどのような成長を遂げた可能性があるかを検討する。近年の教育課程改革(学習指導要領改訂)の動きの中では、育成すべき資質・能力の一つとして「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」が挙げられ、その学び方として「主体的な学び」の重要性が声高に叫ばれている⁽²⁾。この動きは、初等・中等教育に止まらず、将来的に大幅な改革が予定されている大学入試改革を起点に高等教育にまで及ぼうとしている。無論、このような制度的改革の以前より、すでに社会では、学び続けることで社会を生き抜いていかなければならない必要性は存在し、大学を卒業し社会人となる青年には、学ぶことで自己を磨き、課題を解決し、社会に有為な人材となることが期待されている。大学における「偉人」を通した学びが、このような「学びに向かう力」を育めたか、「主体的な学び」を提供できたかを、学生の反応の分析等を通し、検討を行った。

1. 授業の概要

「日本人論」は、以下に示すシラバスに基づいて、授業を進めた。

<資料1> 日本人論シラバス⁽³⁾

授業の概要

私達は日本という国に生きていながら、どのぐらい日本のこと、そしてそこに住む日本人のことを理解しているだろうか。変化が激しく、グローバル化が進む社会にあって、どのように生きていくべきかを考えていく際に、自分自身の足元の状況すなわち日本や日本人のことを理解しておくことは重要だと思われる。この講義では、特に現代日本人の精神性に大きな影響を与えているといわれる武士道と教育勅語に焦点を当て、日本人像を明らかにする。

授業の到達目標

武士道、教育勅語を手がかりに、日本及び日本人への理解を深める。同時に、日本人学生の場合には、日本人としての自分自身のありようを見つめ、これからの生き方の参考となるようにする。留学生の場合には、母国との比較により、やはり自分自身のあり方を見つめる参考となるようにする。

授業計画

- 第1週 オリエンテーション―日本人をどれだけ理解しているだろうか?―
- 第2週 日本の生み出した文化―古代から現代まで―
- 第3週 日本の生み出した産業(技)―職人の力―
- 第4週 日本人の宗教観―多神教の国、日本―

- 第5～7週 日本人の精神性—新渡戸稲造『武士道』から—
第8～10週 日本人の精神性—教育勅語から—
第11～14週 日本の偉人にみる日本人の特質
第15週 これからの日本、これからの日本人

5年間、概ね上記の授業計画に基づいて授業を進めた。半年間にわたる授業の前半では、日本人の精神性を考える材料となる、文化や産業、宗教について概観した。その上で、授業の中盤では、具体的に日本人の精神性を徳目の観点からとらえる立場をとって、新渡戸稲造の『武士道』、『教育勅語』を取り上げ、それらに提示された徳目から日本人の精神性(価値観)を明らかにした。実際には、現在の日本において重視される徳目として、学習指導要領の「道徳」で取り上げられる内容も検討した。その後、授業の後半において、日本の偉人を取り上げ、日本人の精神面から見た特質を検討した。検討にあたっては、各学生にも1名ずつ偉人を調べ、発表してもらった。なお、本科目は選択科目のため、受講者数は一定ではなく、この学生の発表時間の確保のために、授業計画は年度によって多少の差異が生じた。

「日本人論」ということで、日本人の精神性を論ずる学説や書物は多数あるが、その中で、新渡戸の『武士道』と、明治時代の『教育勅語』、そして学習指導要領の『道徳』を取り上げたのは、まず、『武士道』については、「日本人が初めて自分で日本文化の特質を意識化した」⁽⁴⁾「日本文化論の嚆矢(こうし)」⁽⁵⁾であり、その立場から江戸時代の徳目が示されていることによる。また、『教育勅語』『道徳』についても、それぞれ、明治～昭和初期そして現在の、日本人が大切にしたい徳目を簡潔に示していることによる。授業では、それら徳目を、学生に強要することはせず、その時代その時代に大切にされてきたこととして解説を行った。

2. 授業における偉人伝の活用方法

次に、授業の概ね第11～14週に行った偉人伝を活用した授業については、本章で詳述しておく。偉人伝の活用にあたって、まずは、世界的・全国的な偉業を成し遂げたような人物については、筆者の方から紹介した。紹介の際には、その偉業を成し遂げる背景に、授業の前半で概観した日本人の精神性や徳目の影響があったかどうかを分析し、その観点からの紹介を心掛けた。また、偉業を為す人が個人的に著しく優れていることばかりが強調されないよう、複数の日本人によって成し遂げられた偉業についても紹介を試みた。5年間に取り上げた偉人は以下の通りである⁽⁶⁾。

<資料2> 筆者が紹介した偉人

- ・山中伸弥
- ・牧野富太郎
- ・杉原千畝
- ・工藤俊作(駆逐艦「雷」艦長)
- ・禅海和尚(菊池寛『恩讐の彼方に』のモデル)

- ・ 八田與一
- ・ 村上和雄
- ・ 平成天皇
- ・ 上杉鷹山
- ・ 和歌山県大島の人々 (『エルトゥールル号』救出)
- ・ 新幹線の清掃スタッフの方々 (『7分間の奇跡』)

一方で、学生には、彼らそれぞれの地元の偉人を探してもらい、その偉人伝を発表・紹介してもらった。今、私たちが住んでいる状況が、昔から自然と整えられたのではなく、特産物にしろ、道路にしろ、その地域をより住みやすく、またより発展していくことを願って尽力された先人の存在があって初めてそのようになっていることを理解し、偉人と呼ばれる人の存在を身近に感じてもらうために、敢えて、地元の偉人調べを課題とした。

調べ作業の手続きとしては、まず学生には、授業の中頃になると、＜資料3＞に示す資料を配布し、地元の偉人探しを促した。一定期間をおいて、調査・発表予定の偉人を特定して報告してもらい、それを受けて筆者の方で調べる偉人が重ならないように調整して⁽⁷⁾、各自が調べる偉人を決定した。調査・発表の項目については、＜資料4＞に示すように、授業前半で概観した日本人の精神性や徳目の観点から調査内容を整理・考察できるようなワークシートを提示し、それに基づいて、1人3～10分(受講者数によって増減)の発表を行ってもらった⁽⁸⁾。

また、発表時には、＜資料5＞に示すようなメモシートを作成し、受講者全体で調査結果を共有できるような方法を試みた。調べ作業の準備において、発表する偉人が重ならないように調整を行ったため、発表された偉人の人数は、受講者数に比例することとなり、最大71名(平成30年度)に上った。

<資料3>

2016.11.17.

教養講座E 日本人論

「6. 日本の偉人にみる日本人の特質」地域の偉人 発表要領

自分の住んでいる地域の偉人について調べ、発表してもらいます。発表内容は、配布するシートを参考にまとめ(シートに直接手書きで記入しても、パソコンで作成しても可)、3～5分程度で発表してください。発表のためにまとめたものも提出してもらいます。

今後の予定は以下の通りです。

11月24日 発表する偉人名を下記書報告用紙にて報告(提出)

12月 1日 発表する偉人の確定

12月8日～1月19日までの計5回の授業で、毎回10人ずつ発表
※発表者は別紙に掲載

き り と り

学籍番号 ()

氏 名 ()

(調べて発表する偉人名)

<資料4>

2016.11.17.

教養講座E 日本人論

「6. 日本の偉人にみる日本人の特質」**地域の偉人** 紹介シート

学籍番号 ()

氏 名 ()

1. 偉人の名前 「 」

2. 偉人の生い立ち

2. 功績の内容（必要に応じて資料を添付してもよい）

3. 有していた精神性

4. 調べた感想

5. 参考にした文献・資料・URL等

<資料5>

「日本人論」～「地域の偉人」の発表を聞いて(12月15日分)～

※それぞれの発表を聞いて、自分で調べた偉人以外の、「地域の偉人」に関する知識・情報も増やそう！(＝教養を高めよう！)

学籍番号() 氏名()

学籍番号	地域の偉人の名前	わかったこと・感想
1436144	豊田 佐吉	
1436153	花島兵右衛門	
1536007	羽田野敬雄	
1536073	小川 国夫	
1536080	杉山喜平次	
1536085	北条 政子	
1536121	川島 常吉	
1536127	山葉 寅楠	
1536159	芹沢 銑介	
1636006	渡辺登三郎	

3. 偉人伝の活用の意義～学生の感想の考察から～

各年度ともに、学期末には授業の振り返りを兼ねた持ち込み可の筆記試験を行ってきたが、その中で、偉人調べについては、印象に残った人物や、偉人調べの感想を尋ねた。その中で、平成28年度の試験において、『地域の偉人』を調べてみて、また、この授業全体を通して、あなた自身、今後どのように生きていきたいと考えたか、を記しなさい。」という問いかけをしたところ、以下のような、学生の成長を感じさせる回答をいくつか得ることができた。

- (1) 人の正しさに答えは無いが、語り伝えられてきた先人たちの行いの多くには、強いあこがれのようなものを覚えた。そうしたあこがれる行為こそ、答えに近いのかもしれない。私は私なりの答えを探し続けたい。そして勇気を持って実行してゆきたい。
- (2) 多くの偉人の特徴として、自分のために何かをするのではなく、誰かのためや、地域の人にとって自分をぎせい(原文ママ)にしてまでも行うということがはっきりしました。自分だけがというきたない考えをやめて、周りの人にも利益のあるようなことを心がけたい。
- (3) 偉人も地元にはたくさんいて、ただ自分が知らないだけだった。これからは「知らない」から「ない」ではなく、多くの知識を身につけ、自分も含め、多くの人のために使っていきたい。
- (4) 偉人の生い立ちや成し遂げた事を私達が知る事によって「この人の様な生き方をしたい」「この人の様な事をしたい」と思えるようになります。この講義で調べた事で、自分の今現時点21年間生きてきた事と重ね合わせる事ができた。
- (5) 自分は今までどのような精神論を持って生きていたか、考えたこともなかった。ただ目標を達成するために生きてきた気がする。この授業を受けて、何か一つでも、自分の心に精神論をおいておけば、何をする時でもそれが軸になってくれるのだろうと感じた。私は今後、とにかく周りの人に感謝をして、謙虚に生きたいと思っている。人のために動ける人間になりたいし、人から感謝される人間になりたい。そのためには、まず自分が感謝をしていくことが大事だと思う。自分の思う精神論を信じて、今後生活していきたいと思う。

この年度受験者は合計41名であったが、そのうち上記の回答者を含め、約3分の2にあたる26名が、偉人の生き方を参考に、より良い生き方を考えるようになっていることが伺えた。勿論、この回答が試験時のものであることは考慮に入れる必要はあるが、好成績を得るために一時的な気分で記せるものではないと思われるし、もしそうであっても、一瞬このような考えを有することができただけでもそれは価値のあることと考えたい。

「はじめに」においてもすでに述べた事であるが、現在の教育改革において「学びに向かう力・人間性等の涵養」が挙げられ、その学び方として「主体的な学び」とそれを象徴する「アクティブラーニング」が推奨される中、地域の偉人調べという形での偉人伝の活用は、上記のような学生の意識の変化をみると、このアクティブラーニングの1つとして有用ではないかととらえられる。また、徳目を、望ましい行動規範として押し付けるので

はなく、それを実践した人物として偉人を提示し、その姿が目標(モデル像)となることで、徳目が主体的に設定した目標となることができている。人間の思考が自由であり、それゆえ生きる方向を自由に設定することは重要であるが、一方で人の成長・発達において目標となるモデル像の存在も重要であり、徳目が偉人伝によって自ら設定した目標となりうることは意義のあることと考えられる。

おわりに

本稿では、5年間の「日本人論」の授業における偉人調べの実践を通して得た、偉人伝活用の教育的意義をまとめてみたが、筆者が授業を始めた当初の予想以上に、偉人伝を活用した授業は、学生に良い影響を与え、変化を促したと感じている。その意義をより確かなものとするためには、さらなる実践と検証データの蓄積が必要と思われる。ただし、学生の成長や変化の検証にあたって、意識の変化を正確に把握するためには、アンケート調査等による数量的把握よりも今回のように自由回答事例を積み重ねていく方が妥当ではないかと現時点では考えており、検証方法の確立も課題の一つである。そのためにも、今後も、何らかの形で、偉人伝を活用した学びを学生たちに提供していきたい。また、この学びを高校生の在り方生き方教育や進路指導にも役立てることができないか、その可能性も探していきたい。

注

- (1)「日本人論」は、カリキュラム上、平成26～28年度の場合には「基礎教育科目」の「教養科目」として、平成29、30年度の場合には「専門教育科目」として位置づけられ、開設された。
- (2)文部科学省「新しい学習指導要領の考え方―中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ―」平成29年度小・中学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料より
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716_1.pdf
- (3)開講初年度、平成26年度のものを提示した。
- (4)(5)新渡戸稲造著、山本博文訳・解説『現代語訳 武士道』ちくま新書、2010、p218
- (6)偉人の選定には、主に、道德教育を進める有識者の会編『13歳からの道德教科書』2012及び『はじめての道德教科書』2013、ともに育鵬社、を参考にした。また、毎年度全て違う偉人を紹介するというよりは、ほぼ同じ人物を紹介した。
- (7)調整には、主に、静岡県校長会・静岡県教職員組合・社団法人静岡県出版文化会編著『地域学習資料 わたしたちの静岡県』p96～111を参考にした。
- (8)資料3～5は、平成28年度のを代表例として示した。

参考文献

- ・新渡戸稲造著、山本博文・解説『現代語訳 武士道』ちくま新書、2010年
- ・NHKテレビテキスト『100分de名著 新渡戸稲造「武士道」』NHK出版、2012年
- ・伊藤哲夫『教育勅語の真実』致知出版社、2011年
- ・明治神宮崇敬会『たいせつなこと』、2013年
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版、2008年
- ・道徳教育を進める有識者の会編『13歳からの道徳教科書』育鵬社、2012年
- ・同上『はじめての道徳教科書』育鵬社、2013年
- ・静岡県校長会・静岡県教職員組合・社団法人静岡県出版文化会編著『地域学習資料 わたしたちの静岡県』静岡教育出版社、2012年
- ・大久保喬樹『日本文化論の系譜—『武士道』から『甘えの構造』まで』中公新書、2003年
- ・中西進『日本人の忘れもの』ウェッジ文庫、2001年